

各関係機関団体の長  
各病虫害防除員 } 殿  
農業資材販売等関係者

福岡県病虫害防除所長

平成20年度病虫害発生予報第5号(9月)について

このことについて、病虫害発生予報第5号を発表したので送付します。

## 水稲、大豆のカメムシ類の防除を徹底しましょう！

本年は、昨年に引き続き水稲の斑点米カメムシ類や大豆の吸実性カメムシ類の多発が予想されます。特に、昨年大発生したミナミアオカメムシが、既に一部の普通期水稲で多発しています。水稲収穫後は、大豆ほ場への本種の移動が心配されますので、十分な注意が必要です。

カメムシ類は広範囲に移動しますので、防除は広域一斉に実施しましょう。



ミナミアオカメムシ



イチモンジカメムシ



大豆の被害粒

### < 予想される向こう1か月の天候 >

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変わるでしょう。

向こう1か月の気温は平年並か高いでしょう。降水量及び日照時間は平年並でしょう。

週別の気温は、1週目及び2週目は平年並か高く、3～4週目は高いでしょう。

#### 要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	20	40	40
降水量	30	40	30
日照時間	30	40	30

(福岡管区气象台 平成20年8月22日発表抜粋)

予報第5号

向こう1か月間の主な病害虫の発生動向は、次のように予想されます。

作物名	病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (予想)	
		平年比	平年比	前年比
普通期水稲	紋枯病 トビイロウンカ 斑点米カメムシ類	少 少 やや多	並 少 多	やや少 少 やや多
大豆	ハスモンヨトウ 吸実性カメムシ類	やや多 やや多	やや多 多	やや少 やや多
かんきつ	黒点病 ミカンハダニ	やや少 並	やや少 並	並 並
かき	炭そ病 フジコナカイガラムシ	やや少 並	並 並	並 並
果樹共通	カメムシ類	やや多	多	多
茶	炭そ病 もち病 輪斑病 カンザワハダニ チャノコカクモンハマキ チャノホソガ チャノミドリヒメヨコバイ チャノキイロアザミウマ	並 並 少 多 少 少 多 並	並 並 並 多 少 やや少 並 並	並 並 並 多 並 並 並 並
イチゴ	炭そ病 ハダニ類	- -	やや少 やや多	やや多 やや多
アスパラガス	鱗翅目害虫	やや多	やや多	やや多

作物別発生予報

注：予報の根拠の末尾の（ ）書きは、（+）は発生を助長する要因、（-）は発生を抑制する要因、（±）は発生  
の助長及び抑制に影響の少ない要因であることを示す。

【普通作物 - 普通期水稲】

1 紋枯病

(1) 予報の内容

発生量：平年並、前年よりやや少

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査の結果、発生量は平年より少なかった（-）。

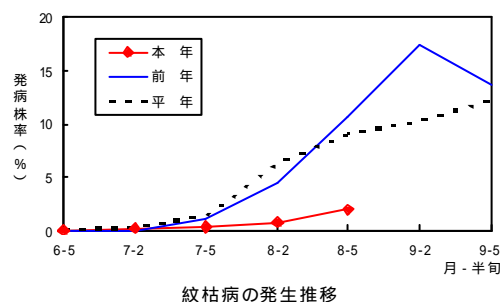
発病株率 1.9%（平年 9.1%、前年 10.7%）

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並とされている（+）。

(3) 防除上の注意

ア 出穂期以降も、病斑の上位進展が認められる場合は、防除を行う。

イ 防除に当たっては、農薬使用基準を遵守するとともに、周辺への飛散（ドリフト）防止の徹底を図る（以下の病害虫についても同じ）。



## 2 トビイロウンカ

### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年より少

### (2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査の結果、発生量は平年より少なかった(-)。

10株当たり払い落とし成幼虫数 0.03頭(平年 1.5頭、前年 1.8頭)

発生ほ場率 5.4%(平年 39.5%、前年 71.7%)

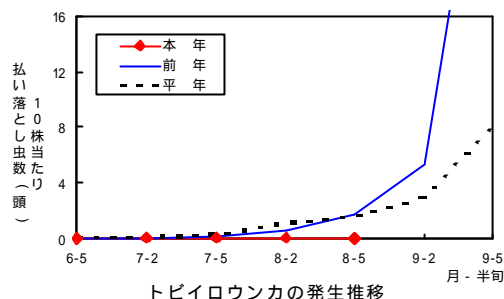
イ 向こう1か月間の気温は平年並か高いとされている(+)

### (3) 防除上の注意

ア 本種の発生量が少ないことから、本年は多発が予想される斑点米カメムシ類を主体とした防除を実施する。

イ 本種は増殖率が高いため、飛来量が少なくても秋には高密度となって坪枯れを起こす可能性がある。このことから、ほ場での発生状況を必ず確認する。

ウ 出穂後は薬剤が株元へ到達しにくくなるため、株元に確実に届くよう注意して散布する。



## 3 斑点米カメムシ類

### (1) 予報の内容

発生量：平年より多、前年よりやや多

### (2) 予報の根拠

ア 県内5地点の予察灯における8月1~5半旬のミナミアオカメムシの合計誘殺虫数は、66頭(過去5か年平均13.3頭、前年49頭)で、過去5か年平均より多かった(+)

イ 8月5半旬調査(出穂後水稻及び雑草地の片振り20回すくい取り)の結果、発生量は平年並であった(±)。

クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、シラホシカメムシ類

本田 0.7頭(平年0.8頭、前年0.6頭)

雑草地 12.4頭(平年13.9頭、前年8.4頭)

カスミカメムシ類

本田 0.6頭(平年0.6頭、前年0.3頭)

雑草地 7.6頭(平年28.1頭、前年10.0頭)

ミナミアオカメムシ

本田 0.2頭(過去5か年平均0.1頭、前年0.4頭)

雑草地 0頭(過去5か年平均0.02頭、前年0.08頭)

ウ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か高いとされている(+)

### (3) 防除上の注意

ア 防除適期は穂揃期及びその7~10日後である。カメムシ類は広範囲に移動するので広域一斉防除を実施する。

イ 防除が実施されたほ場においても、カメムシ類の再飛来には十分注意し、穂揃期散布後の見取り調査でクモヘリカメムシとホソハリカメムシの合計虫数が100株当たり2~4頭を超える場合はその7~10日後に補正防除を行う。

ウ ミナミアオカメムシに対しては、シラフルオフエン剤の防除効果が低いので、効果の高いクロチアニジン剤又はジノテフラン剤を使用する。

【普通作物 - 大豆】

1 ハスモンヨトウ

(1) 予報の内容

発生量： 平年よりやや多、前年よりやや少

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査の結果、発生量はやや多かった(+)。

25株当たり幼虫数 26.7頭(平年 17.9頭、前年7.1頭)、発生ほ場率 73.7%(平年 63.3%、前年 44.4%)

イ フェロモントラップにおける8月1~5半旬の誘殺虫数は平年より少なかった(-)。

筑紫野市 237頭(平年 569.4頭、前年 301頭)

筑後市 187頭(平年 307.3頭、前年 322頭)

行橋市 1223頭(平年 1751.2頭、前年 1844頭)

行橋市はファネル式トラップ

ウ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並とされている(+)

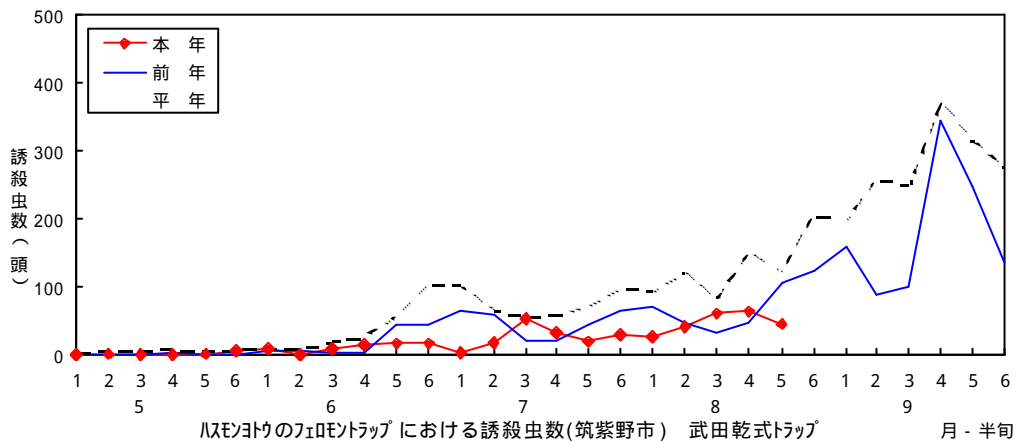
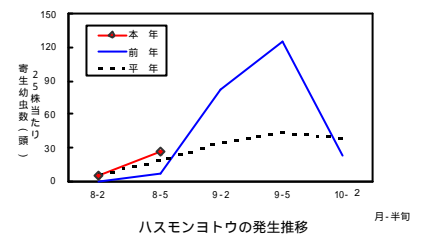
(3) 防除上の注意

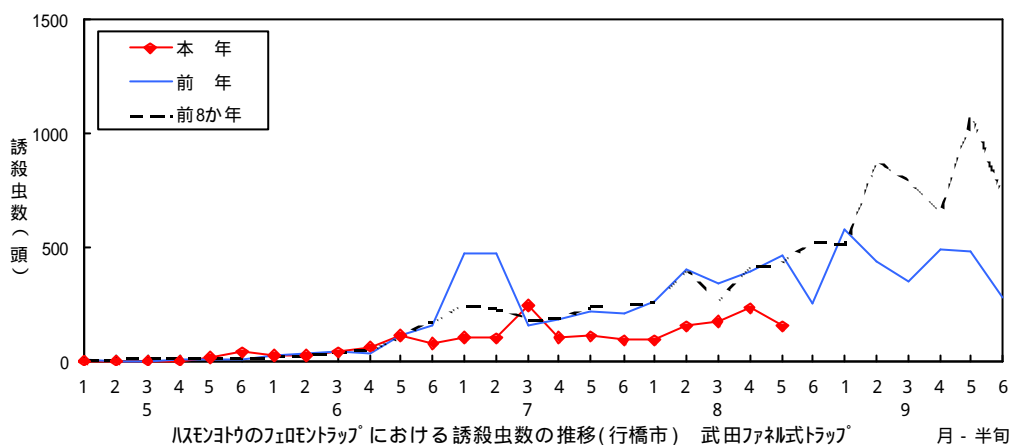
ア 分散前の若齢幼虫が群棲している白変葉は、見つけ次第除去する。

イ 薬剤散布は、効果が高い若齢幼虫期に実施する。

ウ 防除適期はフェロモントラップの誘殺ピークから10日目頃であるが、地域によって発生に差があるため、必ずほ場での発生状況を確認し、白変葉が発生し始めたら早急に防除を行う。

エ 近隣にフェロモントラップが設置されていない場合は、病害虫防除所ホームページのフェロモントラップの誘殺状況(筑紫野市、筑後市、行橋市)を参考にして防除時期を決める。





## 2 吸実性カメムシ類

### (1) 予報の内容

発生量：平年より多、前年よりやや多

### (2) 予報の根拠

ア 県内5地点の予察灯における8月1～5半旬のミナミアオカメムシの誘殺虫数は、66頭（過去5か年平均13.3頭、前年49頭）で、過去5か年平均より多かった（+）。

イ 8月5半旬調査の結果、発生量は平年並であった（±）。

主要3種カメムシ類（アオクサカメムシ、イチモンジカメムシ、ホソヘリカメムシ）

25株当たり成幼虫数 0.3頭（平年0.2頭、前年0頭）

発生ほ場率 21.1%（平年9.6%、前年0%）

ミナミアオカメムシ

25株当たり成幼虫数 0.1頭（平年0.0頭、前年0頭）

発生ほ場率 4.5%（平年1.1%、前年0%）

ウ 向こう1か月の気象予報は、気温は平年並か高いとされている（+）。

### (3) 防除上の注意

ア 防除適期は開花期後30日前後である。多発生の場合は、その7～10日後にも防除を行う。

イ カメムシ類は広範囲に移動するので、広域一斉防除の効果が高い。

ウ ミナミアオカメムシに対しては、シラフルオフエン剤の防除効果が低いので、効果の高いクロチアニジン剤又はジノテフラン剤を使用する。

### 【普通作：その他の病害虫】

作物名 病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (予想)		防除上注意すべき事項等
	平年比	平年比	前年比	
普通期水稻 穂いもち	やや少	並	並	出穂期前後（8月下旬）の降水量が多く、気温の低い日が続いているため、常発田では穂揃い期に防除を行う。

## 【果樹】

### 1 かんきつ黒点病

#### (1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少、前年並

#### (2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査の結果、発生量は平年よりやや少なかった(-)。

発病果率 2.4%(平年 4.6%、前年 1.4%)

発生ほ場率62.5%(平年45.8%、前年33.3%)

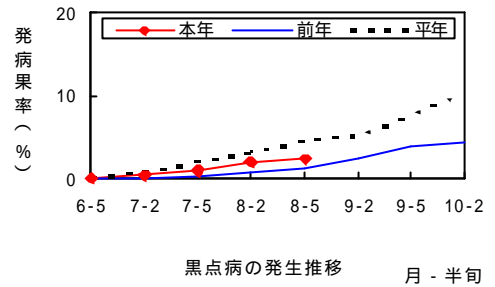
イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並が高く、降水量は平年並とされている(±)。

#### (3) 防除上の注意

ア 伝染源である枯れ枝は極力除去する。

イ 前回の散布から25日又は積算降水量250mmを目安に降雨前の予防散布を徹底する。

ウ 極早生種は収穫期に入るので、防除に当たっては農薬使用基準を確認し、薬剤の選定に注意する。



### 2 かんきつのミカンハダニ

#### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

#### (2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査の結果、発生量は平年並であった(±)。

寄生葉率 17.6%(平年13.7%、前年13.9%)

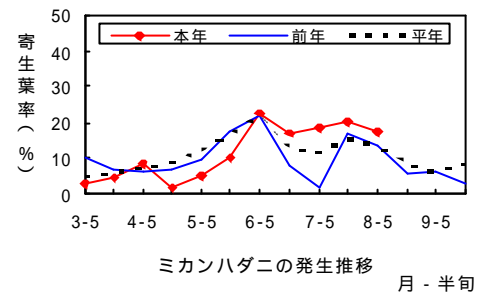
発生ほ場率 75.0%(平年65.8%、前年73.3%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並が高く、降水量は平年並とされている(±)。

#### (3) 防除上の注意

ア 薬液が葉裏に十分かかるよう丁寧に散布する。

イ 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



### 3 かき炭そ病

#### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

#### (2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査の結果、発生量は平年よりやや少なかった(-)。

発病枝率 0%(平年 0.9%、前年 0%)

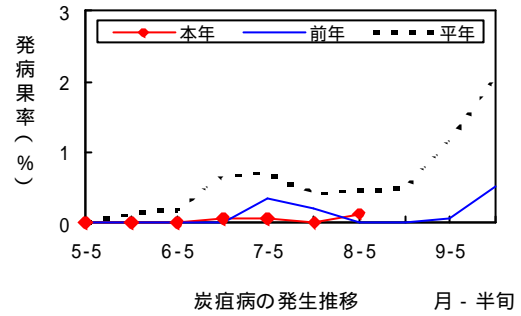
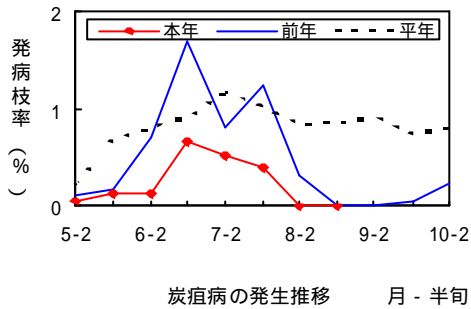
発生ほ場率 0%(平年 24.7%、前年 0%)

発病果率 0.1%(平年 0.5%、前年 0%)

発生ほ場率 13.3%(平年 29.8%、前年 0%)

イ 8月中旬以降の降雨日数が多く、感染に好適な条件が続いている(+)

ウ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並が高く、降水量は平年並とされている(±)。



(3) 防除上の注意

- ア 伝染源である罹病枝及び罹病果は除去する。
- イ 台風等の強風雨が予想される場合や罹病枝の多い園及び本病に弱い品種「早秋」栽培園では薬剤防除を徹底する。
- ウ 樹冠内部の徒長枝に発病しやすいので、樹冠内部にも薬液が十分かかるよう丁寧に散布する。
- エ 早生種は収穫期に入るので、防除に当たっては農薬使用基準を確認し、薬剤の選定に注意する。

4 かきのフジコナカイガラムシ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査の結果、発生量は平年並であった(±)。

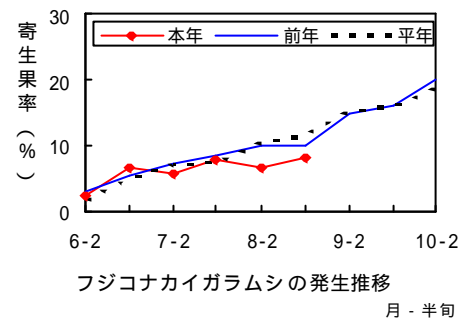
寄生果率 8.1%(平年11.7%、前年 9.8%)

発生ほ場率93.3%(平年78.4%、前年88.2%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並が高く、降水量は平年並とされている(+ )。

(3) 防除上の注意

防除の際は、ヘタのすき間や果実と葉が重なった部分にも薬液が十分かかるよう丁寧に散布する。



5 果樹共通のカメムシ類

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年より多

注意報第4号(8月28日付)を公表

(2) 予報の根拠

ア 県下27か所における8月5半旬のヒノキ球果のビ - ティング調査では、寄生虫数(主要3種(チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ))は平均23.8頭(後期発生年の前7か年平均 11.9頭、18年 14.9頭)と後期発生年の前7か年平均より多く、近年に多発した平成18年の最盛期(8月2半旬 26.7頭)並である(+ )。





## 【茶】

### 1 炭そ病

#### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

#### (2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査の結果、発生量は平年並であった(±)。

発病葉数 0.5葉(平年 0.8葉、前年 1.2葉)

発生ほ場率28.0%(前年 30.8%)

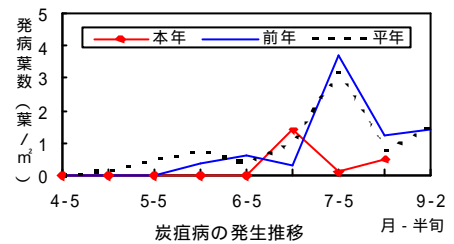
イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並とされている(±)。

#### (3) 防除上の注意

ア 整枝後の残葉での発生に注意し、萌芽から1葉期までに薬剤防除を行う。特に最終摘採後の新芽に対する防除を徹底する。

イ 雨滴により胞子が飛散し伝搬するので、降雨前の薬剤防除の効果が高い。

ウ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



### 2 もち病

#### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

#### (2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査の結果、発生量は平年並であった(±)。

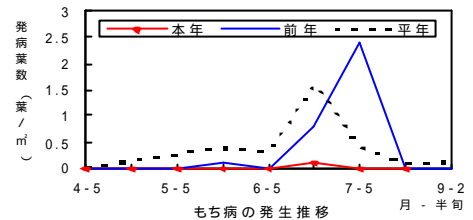
発病葉数 0葉(平年 0.09葉、前年 0葉)

発生ほ場率 0%(前年 0%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並とされている(±)。

#### (3) 防除上の注意

降雨が多いと感染しやすくなるため、発生のおそれのある園では、萌芽から1葉期までに薬剤防除を行う。



### 3 輪斑病

#### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

#### (2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査の結果、発生量は平年より少なかった(-)。

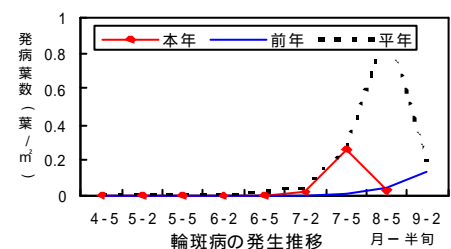
発病葉数 0.03葉(平年 0.95葉、前年 0.05葉)

発生ほ場率 4.0%(前年 3.8%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並とされている(±)。

#### (3) 防除上の注意

ア 病原菌は葉や茎の傷口から侵入するため、台風等の強い風雨や夕立ちで感染が急速に拡大する場合があるので、降雨後速やかに(翌日までに)防除を行う。



### 4 カンザワハダニ

#### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年より多

注意報第3号(8月25日付)を発表

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査の結果、発生量は平年より多かった(+ )。

寄生葉率 10.2%(平年 1.7%、前年 2.4%)

50葉当たり虫数 36.4頭(平年 2.9頭、前年 5.7頭)

発生ほ場率 56.0%(平年 30.4%、前年 46.2%)

イ 8月以降、発生程度、発生ほ場率ともに急増している(+ )。

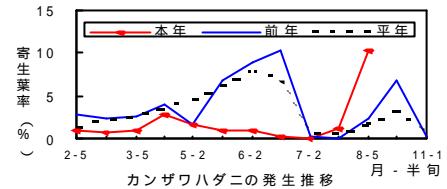
ウ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並とされている(+ )。

(3) 防除上の注意

ア 各ほ場ごとに発生状況をよく観察し、秋芽伸育期(8月下旬から9月上旬)に寄生葉率が2%以上である場合は直ちに防除を行う。

イ 薬剤は、寄生の多い葉裏・裾葉に十分にかかるとよう丁寧に散布する。

ウ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



5 チャノコカクモンハマキ

(1) 予報の内容

発生量：平年より少、前年並

(2) 予報の根拠

ア フェロモントラップにおける8月1半旬から8月5半旬までの誘殺虫数は平年より少なかった(- )。

調査地点：筑後市 73頭(平年 248頭、前年 123頭)

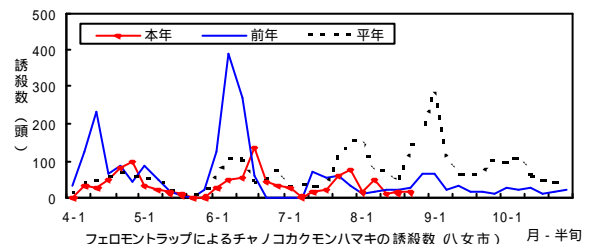
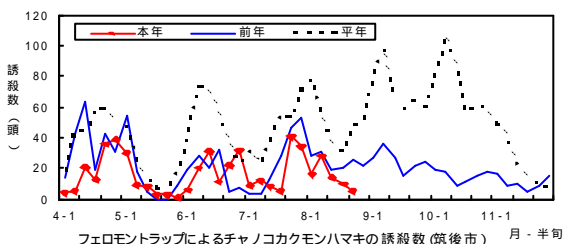
八女市 101頭(平年 473頭、前年 89頭)

イ 8月5半旬調査の結果、発生量は平年並であった(±)。

被害葉数 0.9葉(平年 1.0葉、前年 4.2葉)

発生ほ場率28.0%(前年 42.3%)

ウ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並とされている(+ )。



(3) 防除上の注意

ア 第3世代成虫の発蛾最盛期は9月上旬頃と予想されるので、ほ場での成虫の発生に注意し、最盛期から7日後を目安に防除を行う。

イ 巻葉後は防除効果が劣るため、巻葉が見られたら直ちに防除を行う。

6 チャノホソガ

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少、前年並

(2) 予報の根拠

ア フェロモントラップにおける8月1半旬から8月5半旬までの誘殺虫数は平年より少なかった(- )。

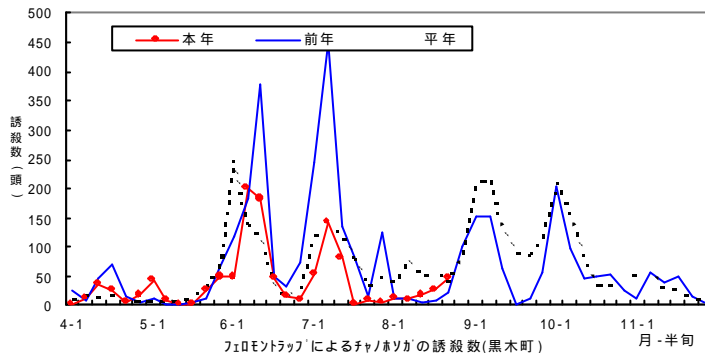
調査地点：黒木町 110頭(平年 258頭、前年 57頭)

イ 8月5半旬調査の結果、発生量は平年より少なかった(-)。

被害葉数 0葉(平年 1.6葉、前年 0.3葉)

発生ほ場率 0%(前年 23.1%)

ウ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並が高く、降水量は平年並とされている(+)



(3) 防除上の注意

ア 第4世代成虫の発蛾最盛期は9月上旬頃と予想されるので、ほ場での成虫の発生に注意し、最盛期から7日後を目安に防除を行う。

イ 巻葉後は防除効果が劣るため、巻葉が見られたら直ちに防除を行う。

7 チャノミドリヒメヨコバイ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査の結果、発生量は平年より多かった(+)

たたき落とし虫数1.4頭(平年 0.4頭、前年 1.3頭)

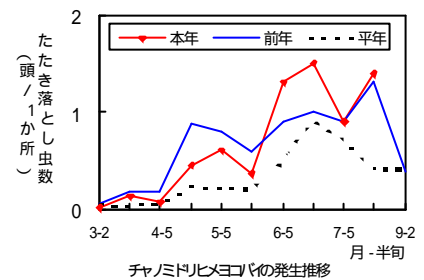
発生ほ場率 80.0%(前年 65.4%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並が高く、降水量は平年並とされている(-)

(3) 防除上の注意

ア たたき落とし(A4版白紙上)で4頭以上発生している場合は防除を行う。

イ 新芽の萌芽から開葉期を重点に防除する。



8 チャノキイロアザミウマ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査の結果、発生量は平年並であった(±)

たたき落とし虫数3.8頭(平年 3.6頭、前年 5.3頭)

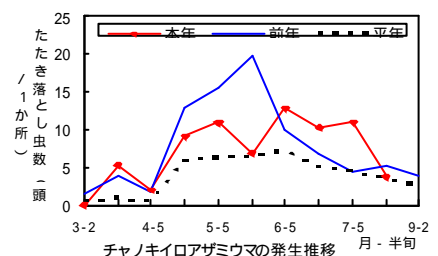
発生ほ場率 88.0%(前年 88.5%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並が高く、降水量は平年並とされている(+)

(3) 防除上の注意

ア たたき落とし(A4版白紙上)で10頭以上発生している場合は防除を行う。

イ 新芽の萌芽から開葉期を重点に防除する。



## 【野菜】

### 1 イチゴの炭そ病

#### (1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少、前年よりやや多

#### (2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査の結果、発病株率は0.2%であった。

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並とされている(±)。

#### (3) 防除上注意すべき事項

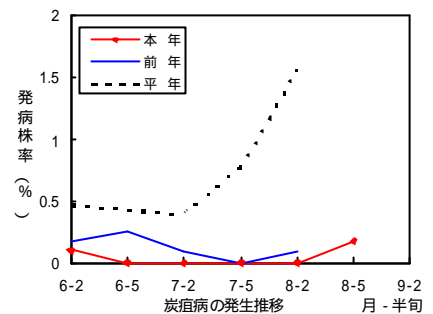
ア 罹病苗と感染の疑いのある周辺の苗は、直ちに除去する。

イ 苗の選別には特に注意し、感染している可能性がある生育不良株は使用しない。

ウ 定植後の枯死株は、残渣を残さずに周囲の土ごと掘り取り、ほ場外に処分する。

エ ビニル被覆前までは新しい感染の恐れがあるので、定期的に防除を行う。

オ ほ場の排水を図り、多湿にならないようにする。



### 2 イチゴのハダニ類

#### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多

#### (2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査の結果、寄生株率は20.2%であった。

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並とされている(+)

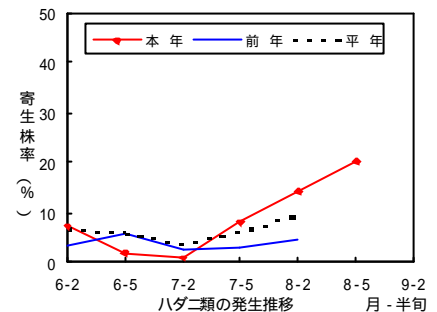
#### (3) 防除上注意すべき事項

ア 多発後は防除が困難になるので、初期防除を徹底する。

イ 定植前の苗にハダニの寄生がないかよく確認し、ハウス内へ持ち込まない。

ウ 摘葉した葉はほ場内に放置せず、ビニル袋等に入れ密封して処分する。

エ ほ場内や周辺の除草を徹底する。



### 3 アスパラガスの鱗翅目害虫

#### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多

#### (2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査の結果、発生量は平年よりやや多かった(+)

寄生株率 7.5% (平年 2.7%、前年 1.9%)

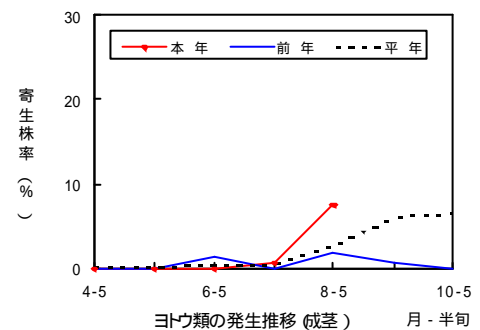
イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並とされている(+)

#### (3) 防除上注意すべき事項

ア 成茎の擬葉を手で払い、幼虫の寄生の有無を確認する。

イ 早期発見に努め、防除効果が高い若齢幼虫のうちに防除する。

ウ 黄色蛍光灯は引き続き夜間点灯し、収穫終了後まで継続する。



【野菜：その他の病害虫】

作物名 病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (予想)		防除上注意すべき事項等
	平年比	平年比	前年比	
アスパラガス 斑点性病害	並	並	やや多	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発生初期の薬剤防除を徹底する。</li> <li>・過繁茂にならないように摘葉を行い、ほ場内の通風をよくする。</li> <li>・ほ場内や周辺の除草を徹底する。</li> </ul>
アザミウマ類	並	並	並	
ハダニ類	並	並	並	
アブラムシ類	やや少	並	並	
野菜共通 コナジラミ類	並	並	やや多	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本虫はトマト黄化葉巻病やキュウリ退緑黄化病（仮称）の媒介虫である。育苗ハウスには防虫ネット（0.4mm目合い以下）を設置し、育苗ポット入手時の粒剤処理、定期的な薬剤散布等、体系的な防除を実施する。</li> </ul>
<p>捕獲頭数（頭）</p> <p>トマト苗トラップでのタバココナジラミ類捕獲頭数の推移（筑後市）</p>				

## 農薬の適正使用、飛散防止対策の徹底を！

全ての農薬の残留基準が農作物毎に設定され基準値を超えた食品（農産物）は販売が禁止されます。

農薬の使用に当たっては、ラベルを確認し農薬の使用基準を厳守するとともに周辺に飛散（ドリフト）しないよう対策を講ずるとともに注意を払って下さい。

### 1 農薬適正使用の徹底

適用作物、使用量、濃度、使用時期、使用回数のなどラベルを確認し使用基準を遵守する。

噴霧器、薬液タンク、ホースなどの散布器具を十分に洗浄する。

他作物が隣接している場合は、なるべく双方に登録がある農薬を使用する。

### 2 飛散防止対策の徹底

風、散布方向、散布時間、散布圧などに留意する。

飛散しにくい農薬（剤型）や飛散が少ないドリフトレスノズルを使用する。

散布ほ場周辺の収穫前の作物には十分注意する。

### 3 防除履歴の記帳

薬剤散布が終わったら、作物名、ほ場の場所、散布月日、薬剤名、使用濃度、散布量等を正確に記帳する。

病虫害防除所では、病虫害の発生状況と防除についてホームページでお知らせしています。

ホームページ <http://www.jppn.ne.jp/fukuoka>  
電子メール [kfok0301@sp.jppn.ne.jp](mailto:kfok0301@sp.jppn.ne.jp)